

大阪経済の情勢

(平成26年9月指標を中心に)

平成26年11月
大阪府商工労働部
(大阪産業経済リサーチセンター)

「大阪経済は、緩やかな回復基調が続いているものの、一部に弱い動きがみられる」

需要面では、個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復している。家電販売額(8月)、新車販売台数は減少したが、大型小売店販売額、コンビニ販売額は増加した。家計消費支出(近畿)は増加。投資は、このところ弱い動きとなっている。住宅投資、非居住用建設投資はともに減少した。公共投資は増加。輸出は、緩やかに持ち直している。輸出額は19ヶ月連続で増加。主要国向けではアジア、中国、アメリカ向けで増加。輸入額は2ヶ月ぶりの増加。取扱貨物量は、関空、大阪港はともに増加。

供給面では、生産動向は弱含んでいる。大阪府(8月)は、生産、出荷はともに低下。近畿の生産(8月)は低下、全国の生産(9月)は上昇。在庫循環は意図せざる在庫減局面。雇用は基調としては改善している。近畿の失業率は横ばい、所定外労働時間(8月)は増加。有効求人倍率、新規求人倍率はともに低下。倒産では、件数は悪化、負債金額は改善。

先行きについては、景気動向指数(先行)は上昇。今後は、消費税率引き上げ後の反動減の長期化、海外経済の動向等に引き続き注意が必要。

		需要							
総合		消費				投資		貿易・貨物	
一致CI(大阪)		大型小売店販売(大阪)	コンビニ販売(近畿)	家電販売(近畿)	新車販売(大阪)	新設住宅着工(大阪)	建築物着工(大阪)	輸出(近畿)	関空取扱貨物量
9月		↑	↑	↓	↓	↓	↓	↑	↑
8月	↓	↑	↑	↓	↓	↑	↓	↑	↑

		供給				その他
生産		雇用		倒産	観光	
生産指数(大阪)	生産指数(全国)	有効求人倍率(大阪)	失業率*(近畿)	倒産件数*(大阪)	関空外国人旅客	
9月	↑	↓	→	↓	↑	
8月	↓	↓	↑	↑	↑	

※前年同月と比較し、上向きの矢印は「景況改善」、下向きの矢印は「景況悪化」。ただし、一致CI、生産指数、有効求人倍率は季節調整済みのため、前月との比較。失業率と倒産件数は、減少・低下が景況改善となり、上向きの矢印となる。

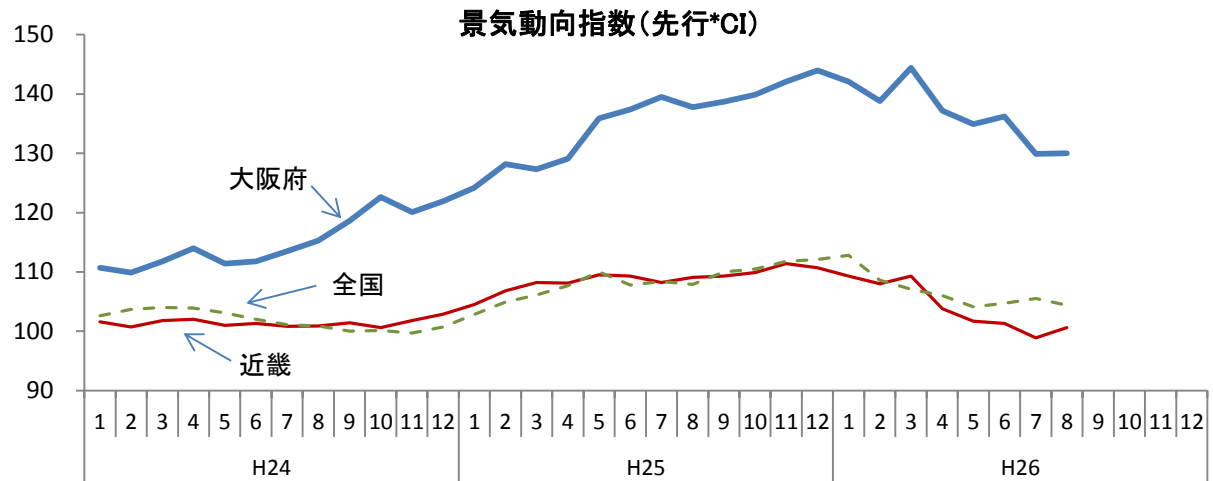
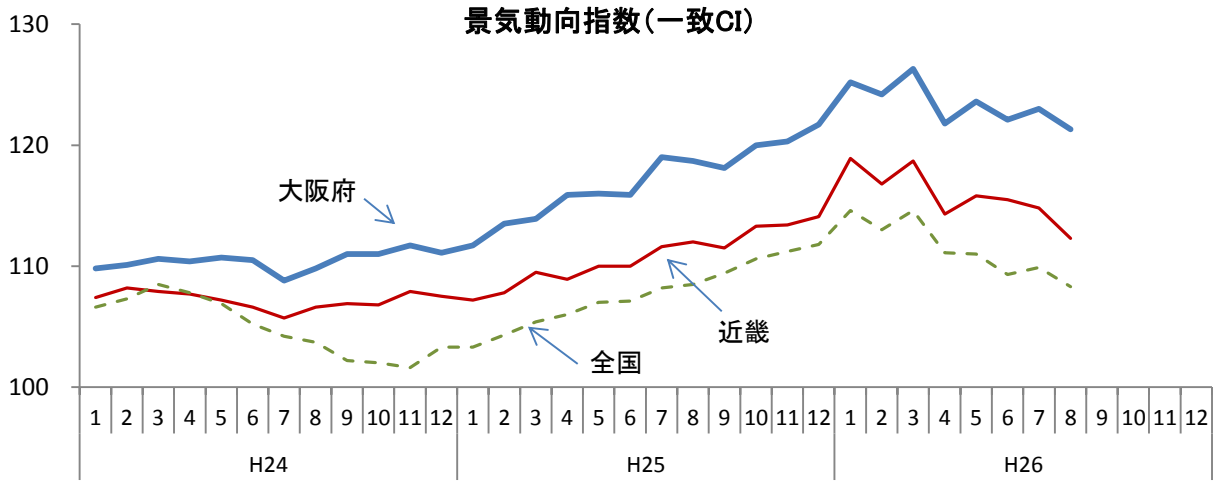
(参考)他機関の総括判断

	前回(26年9月公表分) (26年7月指標中心)	今回(26年10月公表分) (26年8月指標中心)
内閣府 「 月例経済報告 」	景気は、このところ一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	景気は、このところ弱さがみられるが、緩やかな回復基調が続いている。
近畿経済産業局 「 近畿経済の動向 」	近畿地域の経済は、改善の動きがみられる。	近畿地域の経済は、改善の動きがみられるものの、一部に足踏み状態。
日本銀行大阪支店 「 近畿地域金融経済概況 」	近畿地域の景気は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、基調としては緩やかに回復している。	近畿地域の景気は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、基調としては緩やかに回復している。

※以下、Pは速報値を表す

[総合]

○景気動向指数(CI)【大阪府(8月)は一致CIは低下、先行CIは上昇。大阪府(一致CI)では、主に「関西大口電力使用量」、「所定外労働時間指数(製造業)」が低下に寄与。近畿(8月)は一致CIは低下、先行CIは上昇。全国(8月)の一致は低下。】



(資料) 大阪産業経済リサーチセンター「景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」

※ H22=100。

先行 CI は、3ヶ月から半年程度、景気に先行する指標で構成されている。

一致 CI

	26年7月	8月	9月
大阪府	123.0	P 121.3	
近畿	114.8	P 112.3	
全国	109.9	108.3	

先行 CI

	26年7月	8月	9月
大阪府	129.9	P 130.0	
近畿	98.9	P 100.6	
全国	105.5	104.4	

一致CIの個別系列の寄与度*(大阪府、8月速報)

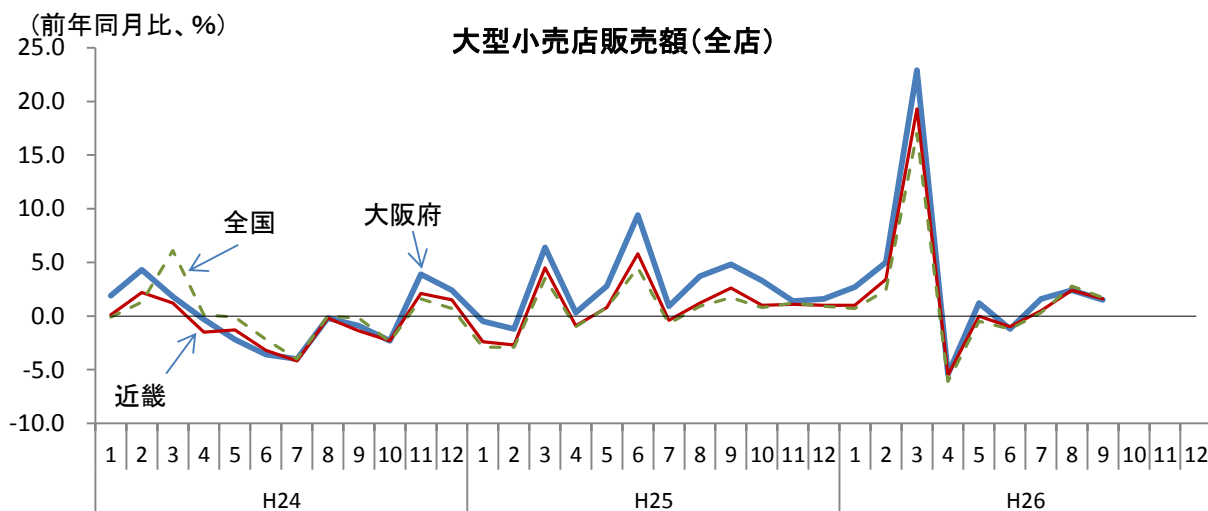
百貨店売場面積当たり販売額	大阪税関管内輸入通関額	製造工業生産指数	生産財出荷指数	関西大口電力使用量(合計)	有効求人倍率	所定外労働時間指数(製造業)
0.46	▲0.45	▲0.18	0.02	▲0.85	▲0.04	▲0.69

※寄与度とは、CIの前月からの変化が、CIを合成する個別系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

[需要] 消費

個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復している。家電販売額(8月)、新車販売台数は減少したが、大型小売店販売額、コンビニ販売額は増加した。家計消費支出(近畿)は増加。

○大型小売店販売額(全店)【3ヶ月連続の増加。】



(資料)近畿経済産業局「大型小売店販売状況」、経済産業省「商業販売統計」

大型小売店販売額(全店)

		26年7月	8月	9月
販売額(億円)	大阪府	1,576	1,384	P 1,343
	近畿	0.5	2.4	P 1.6
前年比(%)	大阪府	1.6	2.4	P 1.5
	全国	0.3	2.8	P 1.7

大阪府内大型小売店へのヒアリングより(9月)

9月は昨年に比べ日曜日が1日少なかったが、大阪府の百貨店、スーパーともに全店ベース売上高(税込)では対前年同月比でプラスとなった。8月中旬から9月中旬にかけて涼しい気候が続いたことで、秋冬物の衣料が動いた影響が大きい。

百貨店では、冬物のコートやセーターを中心に婦人服が好調に動いたほか、化粧品や時計も対前年を上回るまでに回復した。ランドセルも高価格帯の商品が品切れになるなど好調が続く。特に、外国人旅行者への売上が対前年を5割以上上回っており、売上高の増加に寄与している。

スーパーでは、畜産品や農産品の相場高の影響とサンマや鮭といった旬の食材の好調もあり、食料品はプラスとなった。一方で、デング熱の影響で殺虫剤が伸長したといったプラス要因こそあるものの、衣料品や住宅関連用品の落ち込みが長期化しており、消費マインドの冷え込みが懸念される。

百貨店(大阪府)

		26年7月	8月	9月
販売額(億円)		852	644	P 662
前年比(%)		3.0	2.1	P 2.5

スーパー(大阪府)

		26年7月	8月	9月
販売額(億円)		724	740	P 680
前年比(%)		▲0.1	2.7	P 0.5

○コンビニエンスストア販売額(全店)【近畿は19ヶ月連続の増加。】

		26年7月	8月	9月
販売額(億円)	近畿	1,388	1,375	P 1,281
前年比(%)	近畿	6.4	6.0	P 7.5
	全国	5.7	4.4	P 5.6

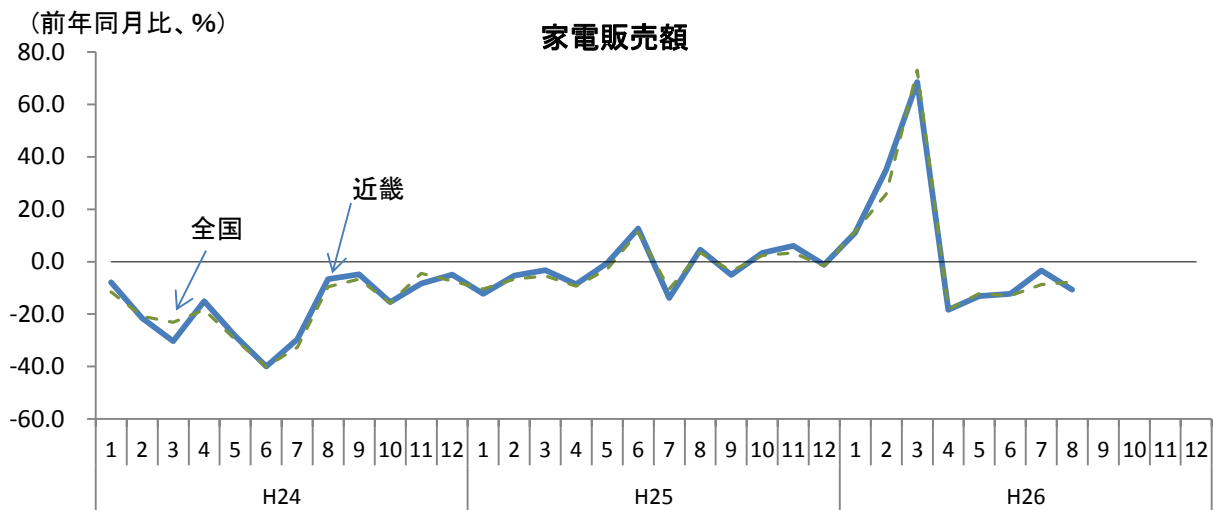
○家計消費支出【近畿は3ヶ月ぶりの増加。】

		26年7月	8月	9月
円	近畿	312,479	300,403	317,634
前年比(%)	近畿	▲0.7	▲9.2	6.1
	全国	0.4	▲2.2	▲3.7

(資料)総務省統計局「家計調査」 ※二人以上の世帯うち勤労者世帯、一世帯当たりの名目。

[需要] 消費

○家電販売額【近畿(8月)は5ヶ月連続の減少。】



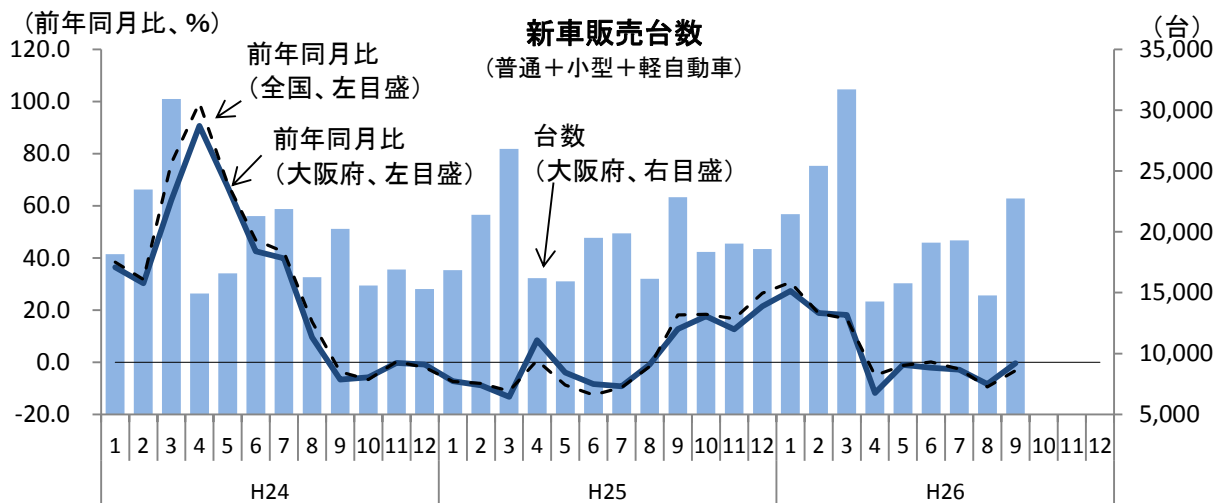
(資料) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

		26年7月	8月	9月
前年比 (%)	近畿	▲3.3	▲10.7	
	全国	▲8.7	▲7.8	

商品別の主な増減(近畿、8月)

「携帯電話」等が前年を上回ったものの、「エアコン」、「冷蔵庫」等が前年を下回った。

○新車販売台数【6ヶ月連続の減少。】



(資料) (一社) 日本自動車販売協会連合会、(一社) 全国軽自動車協会連合会

		26年7月	8月	9月
販売額(台)	大阪府	19,296	14,788	22,755
前年比 (%)	大阪府	▲2.9	▲8.3	▲0.4
	全国	▲2.6	▲9.5	▲3.2

車種別の増減

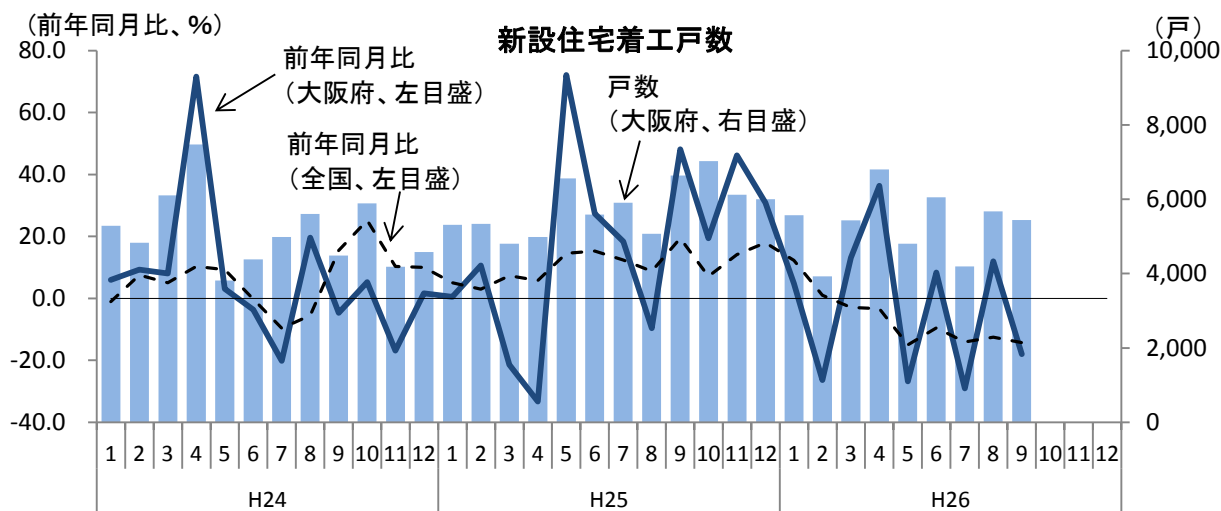
(大阪府、前年同月比(%)、9月)

普通車	小型車	軽自動車
▲0.7	▲7.1	7.3

[需要] 投資

投資は、このところ弱い動きとなっている。住宅投資、非居住用建設投資はともに減少した。公共投資は増加。

○新設住宅着工戸数【2ヶ月ぶりの低下。】

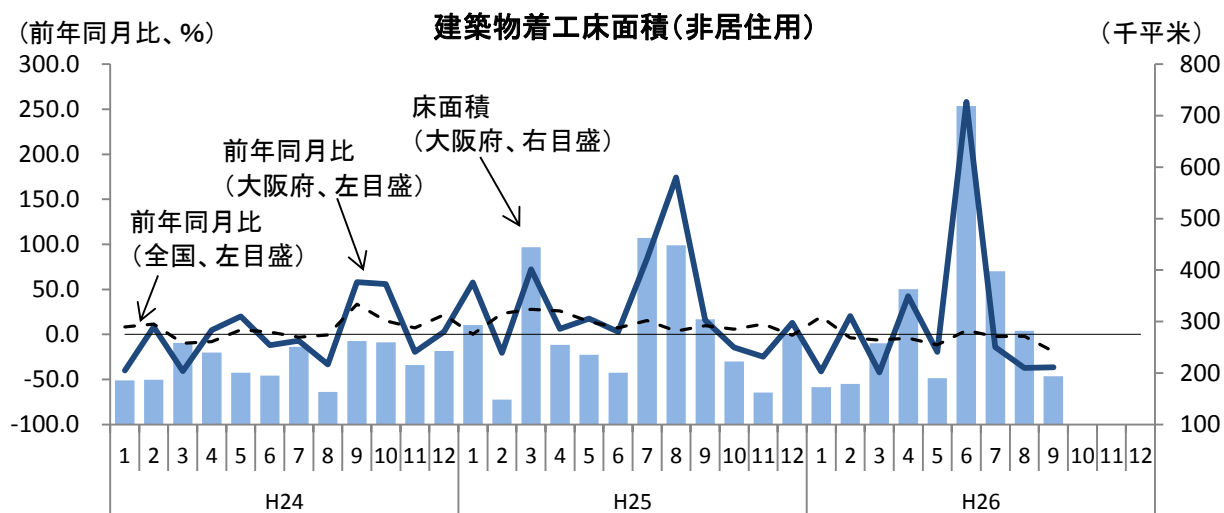


(資料)国土交通省「住宅着工統計」

		26年7月	8月	9月
戸数	大阪府	4,190	5,678	5,444
前年比 (%)	大阪府	▲29.0	12.0	▲18.0
	全国	▲14.1	▲12.5	▲14.3

利用者関係別の増減 (大阪府、前年同月比(%))、9月)		
持家	貸家	分譲
▲20.1	4.1	▲35.4

○建築物着工床面積(非居住用)【3ヶ月連続の低下。】



(資料)国土交通省「建築着工統計」

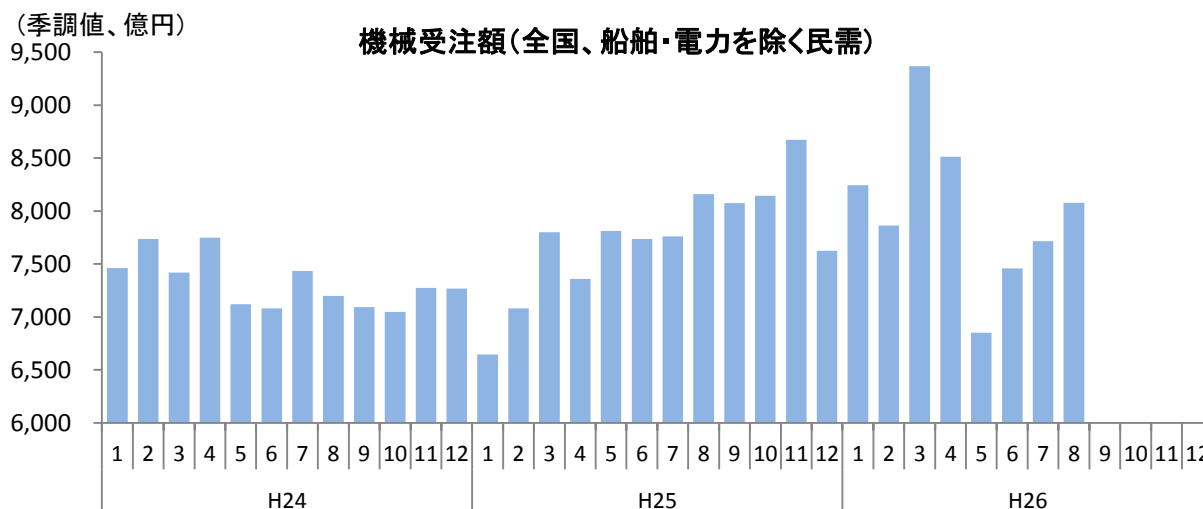
		26年7月	8月	9月
千m ²	大阪府	398	282	194
前年比 (%)	大阪府	▲13.9	▲37.1	▲36.4
	全国	▲2.5	▲2.0	▲20.4

着工床面積の主な増減 (大阪府、前年同月比の寄与度※(%))、9月)	
増加	医療、福祉(9.1)
減少	製造業(▲22.1)、 卸売業、小売業(▲9.6)

※寄与度とは、全体の増減率の要因として、各業種の増減がどの程度貢献しているのかを表す数値。

[需要] 投資

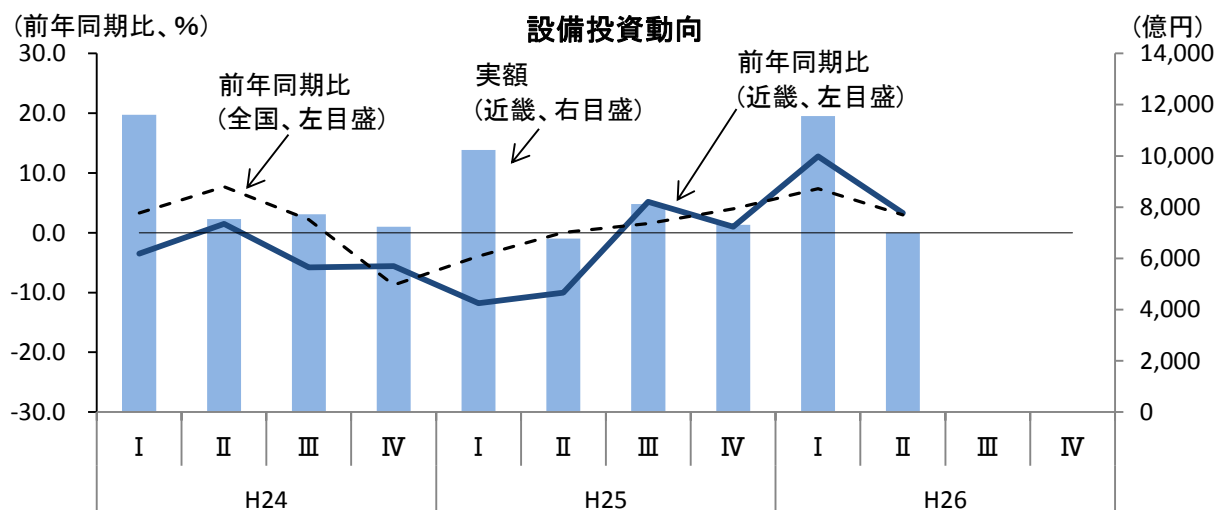
○機械受注額【8月(全国)は増加。製造業は減少、非製造業は増加。】



(資料)内閣府「機械受注統計調査」

	26年7月	8月	9月
全国(億円)	7,717	8,078	

○設備投資動向【4~6月期(近畿)は増加。「製造業」は増加、「非製造業」は減少。】



(資料)近畿財務局「法人企業統計」、財務省「法人企業統計」

※資本金10億円以上、全産業(金融・保険業を除く)。ソフトウェアを含む設備投資。

		25年10~12月	26年1~3月	4~6月
億円	近畿	7,308	11,549	7,001
前年同期比 (%)	近畿	1.0	12.8	3.3
	全国	4.0	7.4	3.0

○公共工事請負金額【4ヶ月連続の増加。】

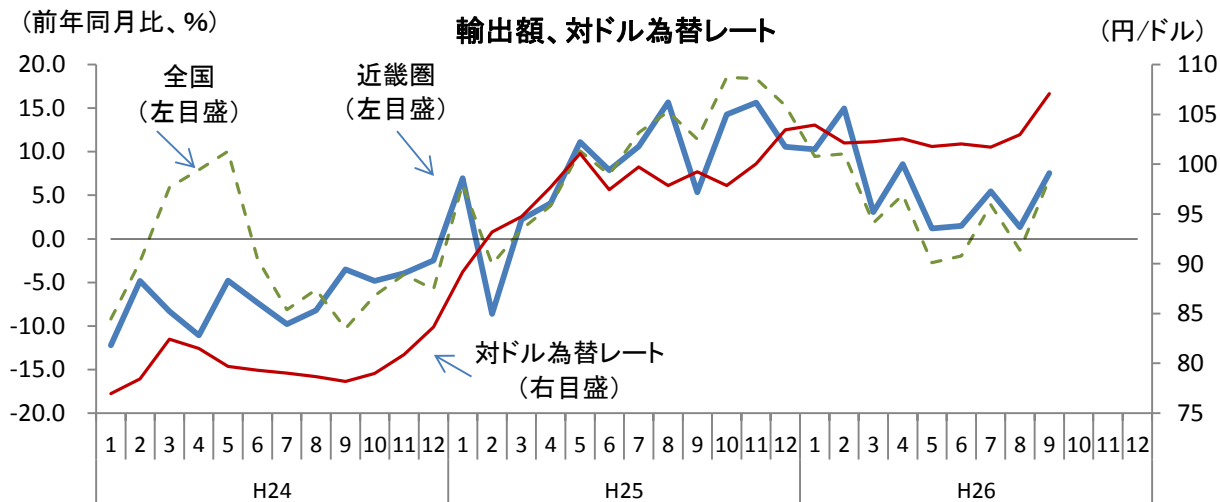
		26年7月	8月	9月
億円	大阪府	604	446	379
前年比 (%)	大阪府	51.7	67.8	6.7
	全国	3.5	▲8.1	▲8.2

(資料)西日本建設業保証(株)「公共工事前払保証統計」

[需要] 貿易・貨物

輸出は、緩やかに持ち直している。輸出額は19ヶ月連続で増加。主要国向けではアジア、中国、アメリカ向けで増加。輸入額は2ヶ月ぶりの増加。取扱貨物量は、関空、大阪港はともに増加。

○輸出額【19ヶ月連続の増加。「半導体等電子部品」、「科学光学機器」などが増加。主要国・地域向けでは、アジア、中国、アメリカ向けで増加。】

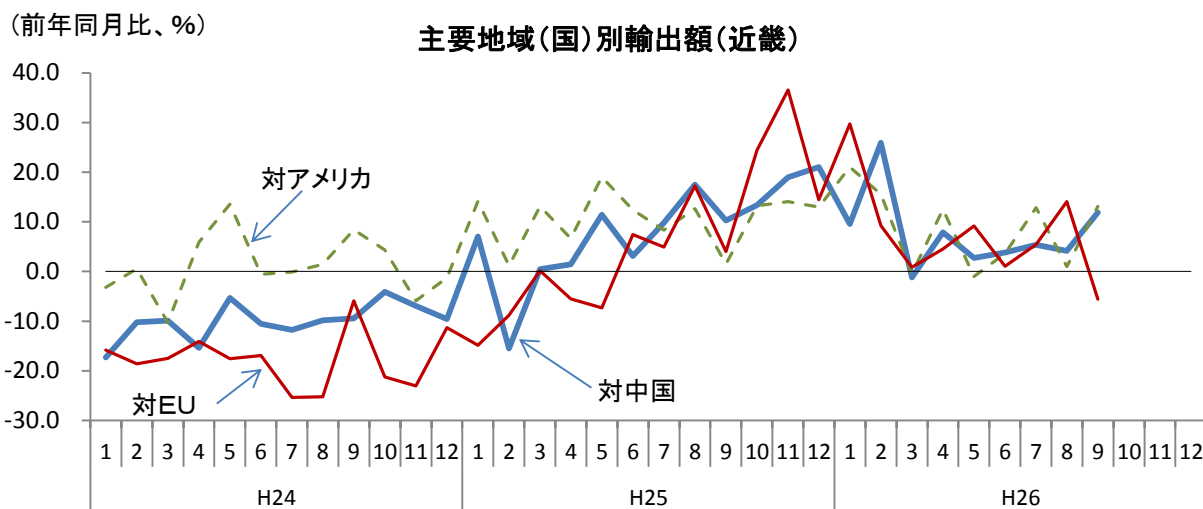


(資料) 大阪税関「貿易統計」、日本銀行「時系列統計」

※対ドル為替レートは、東京インターバンク相場、ドル・円、スポット、中心相場/月中平均。

		26年7月	8月	9月
輸出額(億円)	近畿	13,108	12,736	P 13,491
前年比 (%)	近畿	5.5	1.3	P 7.5
	全国	3.9	▲1.3	P 6.9
為替レート(円/ドル)		101.72	102.96	107.09

品目別の主な増減 (近畿、前年同月からの増減額順、9月)	
増加	半導体等電子部品、科学光学機器
減少	原動機、遊戯用具



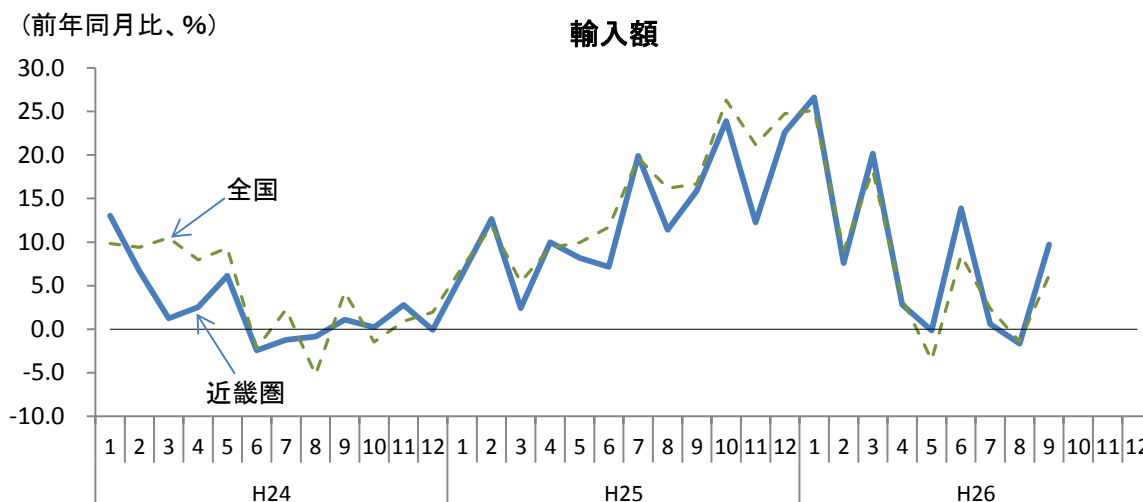
(資料) 大阪税関「貿易統計」

主要地域別輸出額の増減(近畿、前年同月比(%))、9月)

アジア(含む中国)	7.6	2ヶ月ぶりの増加
中国	11.9	6ヶ月連続の増加
EU	▲5.6	16ヶ月ぶりの減少
アメリカ	13.1	4ヶ月連続の増加

[需要] 貿易・貨物

○輸入額【2ヶ月ぶりの増加。「原油及び粗油」、「天然ガス及び製造ガス」などが増加。】



(資料)大阪税関「貿易統計」

		26年7月	8月	9月
輸入額(億円)	近畿	13,739	P 12,291	P 14,139
前年比 (%)	近畿	0.6	P ▲1.7	P 9.7
	全国	2.4	P ▲1.4	P 6.2

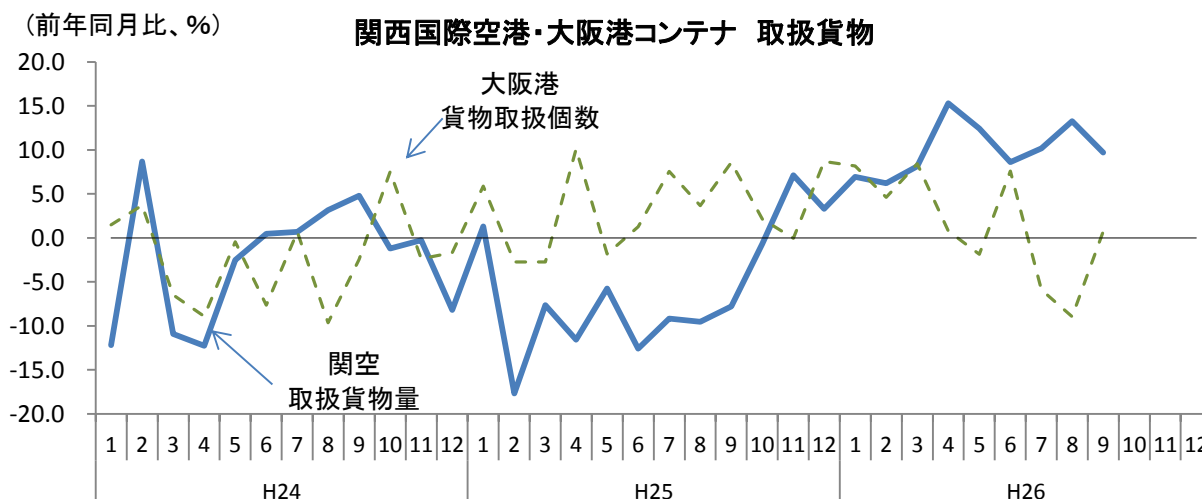
品目別の主な増減
(近畿、前年同月からの増減額順、9月)

増加	原油及び粗油、天然ガス及び製造ガス
減少	鉄鉱石、事務用機器

主要地域別輸入額の増減(近畿、前年同月比(%))、9月)

アジア(含む中国)	7.4	3ヶ月ぶりの増加
中国	6.1	3ヶ月ぶりの増加
EU	5.5	2ヶ月ぶりの増加
アメリカ	15.6	5ヶ月連続の増加

○関空取扱貨物量【11ヶ月連続の増加】、大阪港コンテナ貨物取扱個数【3ヶ月ぶりの増加。】



(資料)新関西国際空港(株)「運営概況」、大阪市「港湾統計」

※関西国際空港貨物取扱量はトン、大阪港コンテナ貨物取扱個数はTEUで、外貿の実入+空の合計。

※TEUとは、コンテナ船の積載能力を示す単位で、1TEUは20フィートコンテナ1個分を示す。

関空取扱貨物量		26年7月	8月	9月
千トン		60.0	P 59.9	P 62.4
前年比 (%)		10.2	P 13.2	P 9.7

大阪港コンテナ貨物取扱個数		26年7月	8月	9月
千TEU		P 184	PP 167	PP 194
前年比 (%)		P ▲5.9	PP ▲9.0	PP 0.7

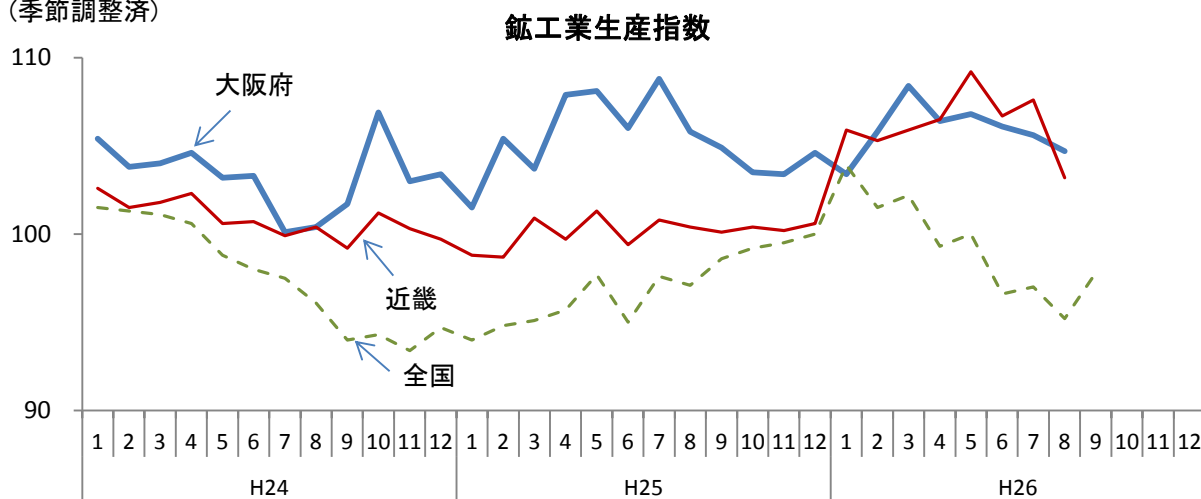
※PPは速報値

[供給] 生産

生産動向は弱含んでいる。大阪府(8月)は、生産、出荷とともに低下。近畿の生産(8月)は低下、全国の生産(9月)は上昇。在庫循環は意図せざる在庫減局面。

○鉱工業生産指数【大阪府(8月)は3ヶ月連続の低下。「金属製品」、「はん用・生産用・業務用機械」などが低下。近畿(8月、鉱工業)は2ヶ月ぶりの低下。全国(9月、鉱工業)は2ヶ月ぶりの上昇。】

(季節調整済)



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」
※大阪府は製造工業指数。H22=100。

季調済	26年7月	8月	9月
大阪府	105.6	P 104.7	
近畿	107.6	103.2	
全国	97.0	95.2	P 97.8

産業別の主な変動
(大阪府、前月比(%)、寄与度順、8月速報)

上昇	化学(6.0): 合成アセトン、酢酸ビニル(モノマー) その他(7.2): 平版印刷(オフセット印刷)、工業用ゴム製品 電気機械(1.7): 開閉制御装置、標準変圧器
低下	金属製品(▲9.1): 橋りょう、架線金物 はん用・生産用・業務用機械(▲1.9): はん用内燃機関、ショベル系掘削機械 プラスチック製品(▲4.5): プラスチック製容器(中空成形)、プラスチック製電気通信用部品

○鉱工業出荷指数【大阪府(8月)は3ヶ月連続の低下。「石油・石炭製品」、「金属製品」などが低下。近畿(8月)は2ヶ月連続の低下。全国(9月)は2ヶ月ぶりの上昇。】

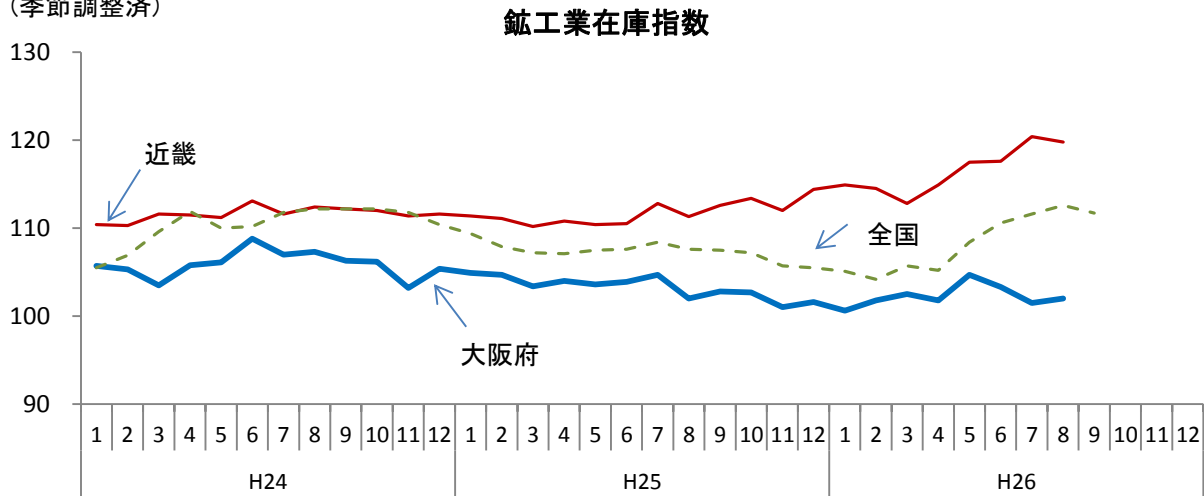
季調済	26年7月	8月	9月
大阪府	95.7	P 94.8	
近畿	101.6	99.2	
全国	95.9	93.9	P 97.9

(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」
※大阪府は製造工業指数。H22=100。

[供給] 生産

○鉱工業在庫指数【大阪府(8月)は3ヶ月ぶりの上昇。「化学」、「鉄鋼」などが上昇。近畿(8月)は5ヶ月ぶりの低下。全国(9月)は5ヶ月ぶりの低下。】

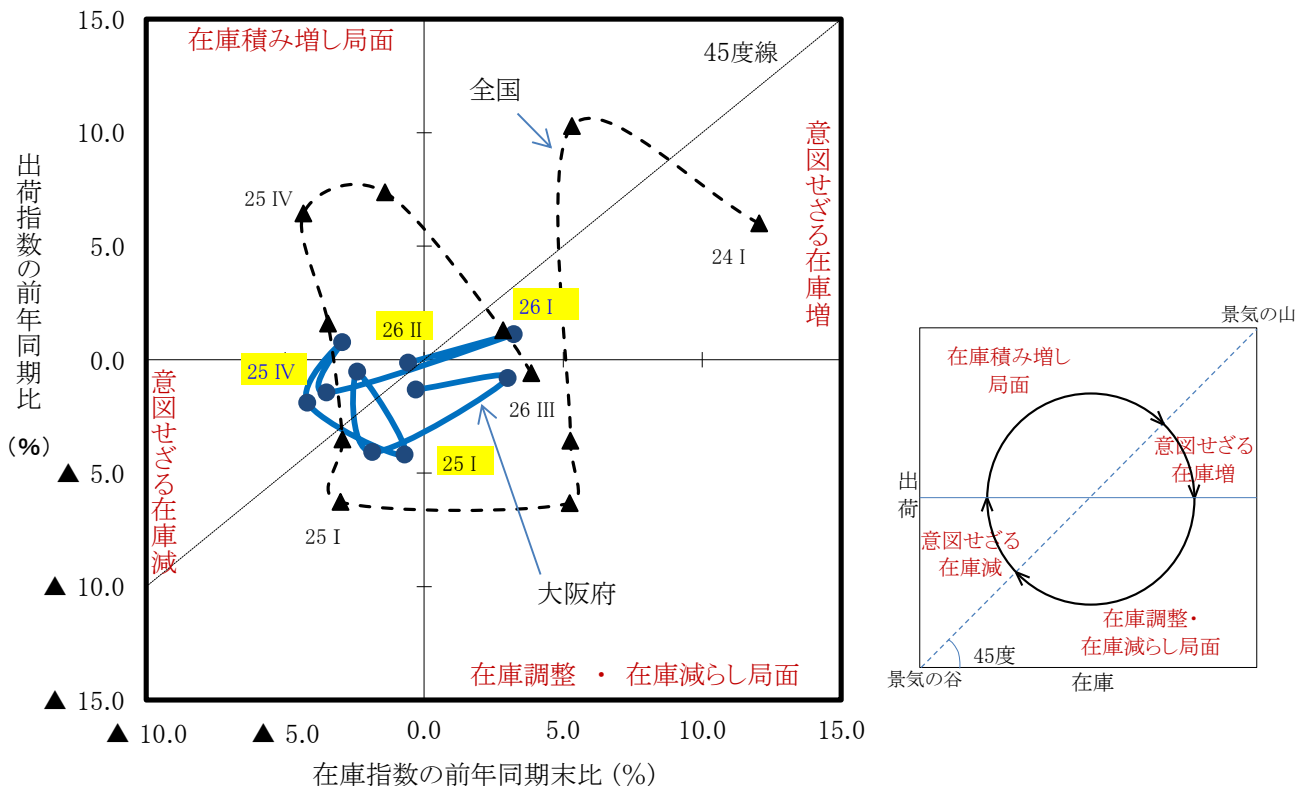
(季節調整済)



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」
※大阪府は製造工業指数。H22=100。

季調済	26年7月	8月	9月
大阪府	101.5	P 102.0	
近畿	120.4	119.8	
全国	111.6	112.6	P 111.7

○在庫循環図【大阪府は意図せざる在庫減局面。全国は在庫調整・在庫減らし局面。】



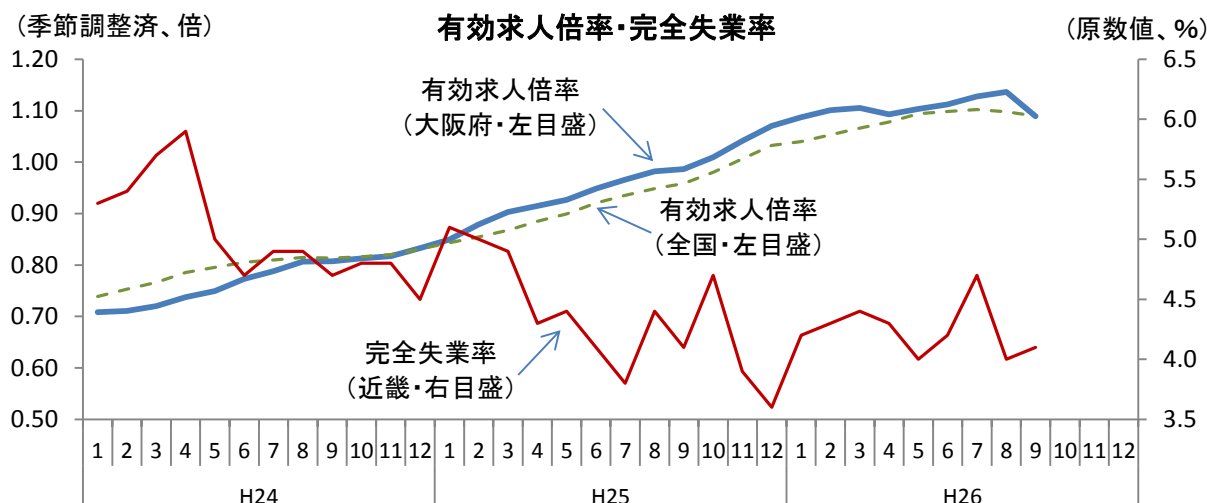
(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、経済産業省「鉱工業指数」、内閣府「鉱工業の在庫循環図と概念図」
※出荷指数は原数値の四半期平均、在庫指数は原数値の四半期期末月の数値。
大阪府は製造工業指数。四半期は暦年ベース。

[供給] 雇用・倒産

雇用は基調としては改善している。近畿の失業率は横ばい、所定外労働時間(8月)は増加。有効求人倍率、新規求人倍率はともに低下。倒産では、件数は悪化、負債金額は改善。

○完全失業率【近畿は前年同月差で横ばい。】

有効求人倍率【大阪は5ヶ月ぶりの低下】、新規求人倍率【大阪は2ヶ月ぶりの低下】



(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」、総務省統計局「労働力調査」 ※有効求人倍率はパートを含む。

完全失業率(近畿、原数値)

	26年7月	8月	9月
%	4.7	4.0	4.1
前年同月差	0.9	▲0.4	0.0

完全失業率(全国、季節調整値)

	26年7月	8月	9月
%	3.8	3.5	3.6
前月差	0.1	▲0.3	0.1

大阪府、近畿及び全国の完全失業率(原数値、%)

	25年10~12月	26年1~3月	4~6月
大阪府	4.2	4.9	4.8
近畿	4.1	4.3	4.2
全国	3.7	3.7	3.7

(資料)大阪府統計課「大阪の就業状況」、総務省統計局「労働力調査」

有効求人倍率(季節調整値、倍)

	26年7月	8月	9月
大阪府	1.13	1.14	1.09
全国	1.10	1.10	1.09

(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」 ※パートを含む。

新規求人倍率(季節調整値、倍)

	26年7月	8月	9月
大阪府	1.69	1.73	1.69
全国	1.66	1.62	1.67

若年者の有効求人倍率(大阪府、倍、9月)

24歳以下	1.17
25~34歳	1.16

(資料)大阪労働局「労働市場月報」

※就職機会積み上げ方式、パートを含む

新規求人数の主要産業別の増減

(大阪府、前年同月比(%), 9月)

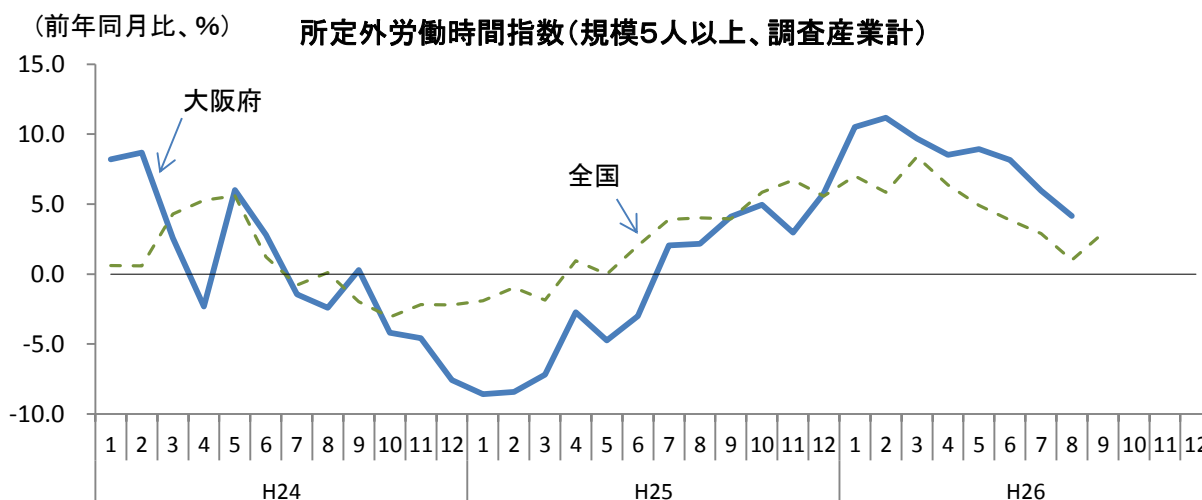
建設業	▲13.8
製造業	6.4
卸売業、小売業	12.2
宿泊業、飲食サービス業	▲22.2
医療、福祉	21.1

(資料)大阪労働局「求人・求職状況速報」

※新規求人数の増減は原数値での比較

[供給] 雇用・倒産

○所定外労働時間指数【大阪府(8月)は14ヶ月連続の増加。】



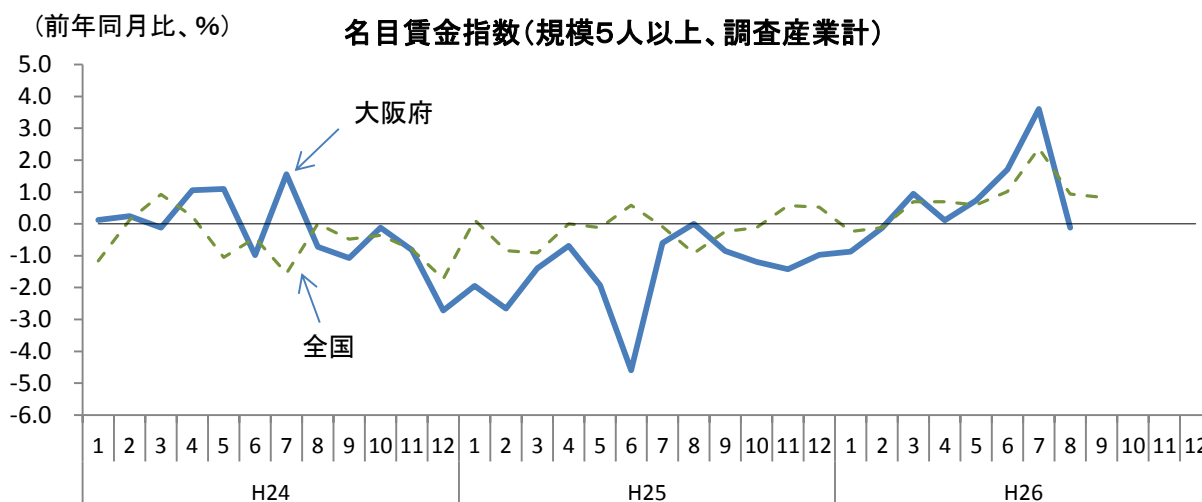
(資料)大阪府統計課「大阪の賃金、労働時間及び雇用の動き」、厚生労働省「毎月勤労統計調査」
 ※事業所規模5人以上、前年同月比は労働時間指数(H22=100)による。

		26年7月	8月	9月
H22=100	大阪府	110.4	103.1	
前年比 (%)	大阪府	6.0	4.1	
	全国	2.9	1.0	P 2.9

産業別所定外労働時間の主な増減 (大阪府、前年同月比(%), 8月)

増加	複合サービス業(23.5)、 電気・ガス・熱供給・水道業(16.9)、 宿泊業、飲食サービス業(16.9)
減少	学術研究、専門・技術サービス業(▲22.6)、 教育、学習支援業(▲13.4)、 その他のサービス業(▲12.4)

○名目賃金指数【大阪府(8月)は6ヶ月ぶりの減少。】



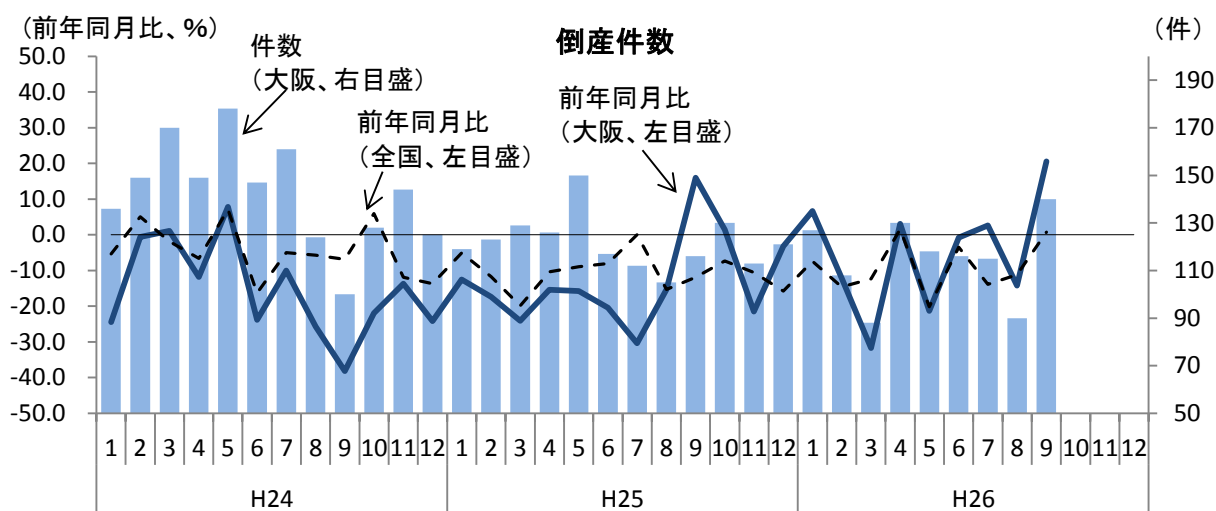
(資料)大阪府統計課「大阪の賃金、労働時間及び雇用の動き」、厚生労働省「毎月勤労統計調査」
 ※前年同月比は名目賃金指数(H22=100)による。

		26年7月	8月	9月
現金給与総額(円)	大阪府	409,440	279,616	
前年比 (%)	大阪府	3.6	▲0.1	
	全国	2.4	0.9	P 0.8

※前年比は名目賃金指数(H22=100)による。

[供給] 雇用・倒産

○倒産【倒産件数は2ヶ月ぶり増加(悪化)、負債金額は2ヶ月連続の減少(改善)。】



(資料)東京商工リサーチ「倒産月報」

倒産件数

		26年7月	8月	9月
件	大阪府	115	90	140
前年比 (%)	大阪府	2.6	▲14.2	20.6
	全国	▲13.9	▲11.2	0.8

負債金額

		26年7月	8月	9月
億円	大阪府	123	271	172
前年比 (%)	大阪府	30.3	▲40.3	▲55.8
	全国	▲35.1	▲18.3	▲28.0

主要業種の倒産件数(大阪府)

	26年7月	8月	9月
建設業	21	19	25
製造業	14	11	24
卸売業	17	15	36
小売業	9	15	11
サービス業	41	24	31

主な倒産(大阪府、9月)

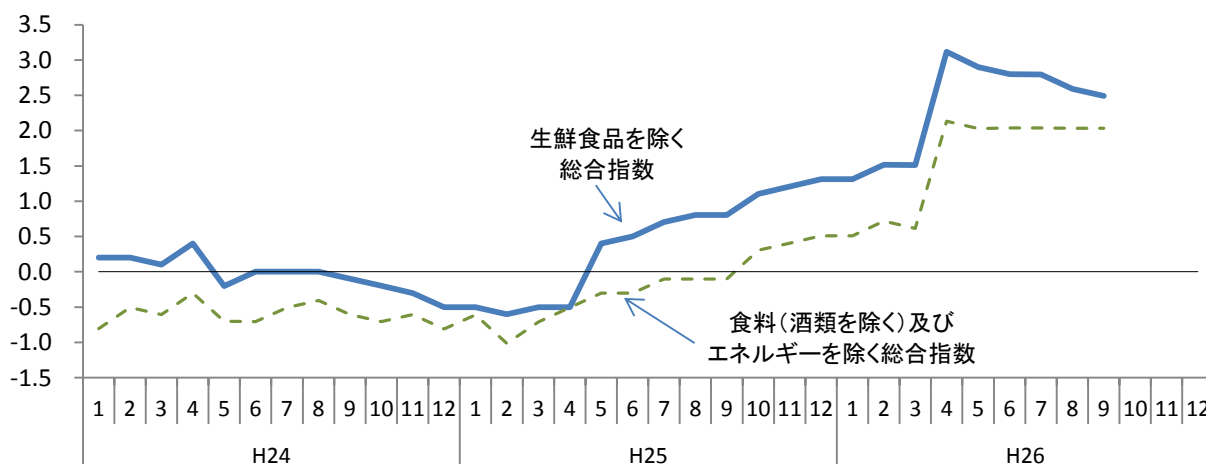
業種	負債額 (百万円)	倒産原因
家庭紙・洋紙ほか卸	3,238	販売不振
アミューズメント景品企画販売	1,901	放漫経営
建築リフォーム・型枠工事	1,500	過小資本
うどん・そば製造	1,000	販売不振

[その他] 物価

○消費者物価指数【大阪市の生鮮食品を除く総合指数は 17 ヶ月連続で上昇。「食料」が上昇に寄与。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は 12 ヶ月連続で上昇。】

(前年同月比、%)

消費者物価指数(大阪市)



(資料)大阪府統計課「大阪市消費者物価指数」、総務省「消費者物価指数」 ※H22=100

生鮮食品を除く総合指数(H22=100)

		26年7月	8月	9月
指数	大阪市	102.9	102.9	P 102.9
前年比 (%)	大阪市	2.8	2.6	P 2.5
	全国	3.3	3.1	3.0

食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合指数(H22=100)

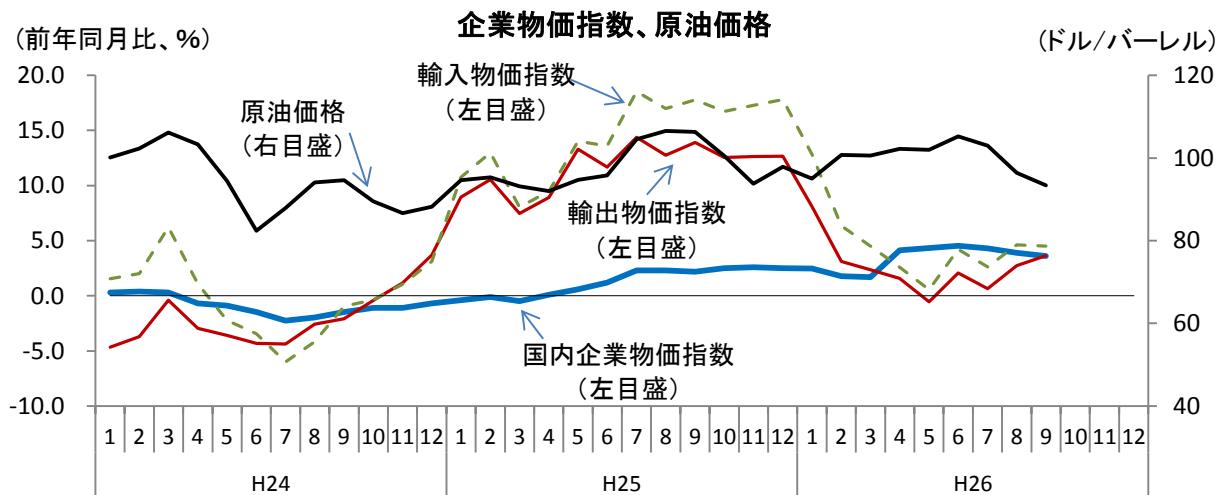
		26年7月	8月	9月
指数	大阪市	100.2	100.3	P 100.4
前年比 (%)	大阪市	2.1	2.1	P 2.0
	全国	2.3	2.3	2.3

総合指数において主に変動した分類
(大阪市、前年同月比(%)、寄与度順、9月速報)

上昇	食料(4.4):野菜・海藻(レタス、はくさい、さといも)、果物(みかん、オレンジ、グレープフルーツ)
	教養娯楽(5.1):教養娯楽用品(がん具自動車、ペットフード(キャットフード))、教養娯楽サービス(美術館入館料、写真プリント代、ゴルフプレー料金)
	光熱・水道(4.6):他の光熱(灯油)、電気代(電気代)
低下	—

[その他] 物価

○企業物価指数【国内企業物価指数、輸出物価指数、輸入物価指数はいずれも上昇。原油価格は低下。】



(資料) 日本銀行「企業物価指数」、IMF「Primary Commodity Prices」

※輸出・輸入物価指数は円ベース。物価指数は H22=100。

企業物価指数 (前年同月比 (%))

	26年7月	8月	9月
国内企業物価指数	4.4	3.9	P 3.5
輸出物価指数	0.7	2.7	P 3.6
輸入物価指数	2.6	4.5	P 4.4

原油価格 (WTI)

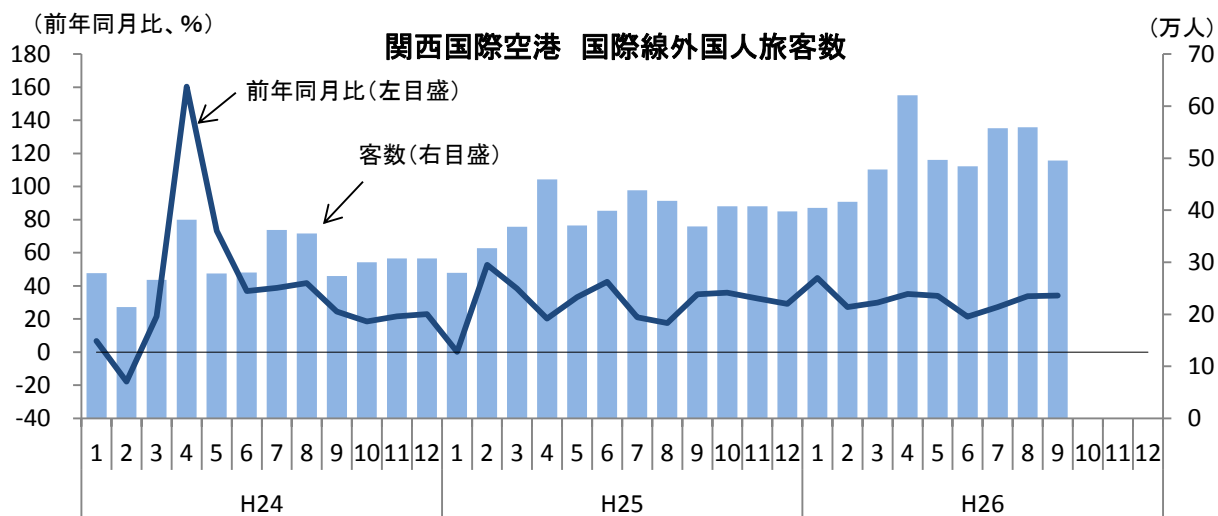
	26年7月	8月	9月
ドル/バーレル	102.99	96.38	93.35

国内企業物価指数の前月比変化に寄与した
主な類別・品目 (9月速報、寄与度 (%))

農林水産物 (0.03) : 鶏卵、牛肉、しらす 干し
非鉄金属 (0.02) : アルミニウム合金・同 二次合金地金、銅地金、黄銅棒
石油・石炭製品 (▲0.10) : ガソリン、軽油、A重油
電力・都市ガス・水道 (▲0.03) : 産業用特別高圧電力、産業用高圧電力、 業務用高圧電力
化学製品 (▲0.02) : キシレン、ベンゼン、 パラキシレン

[その他] 観光

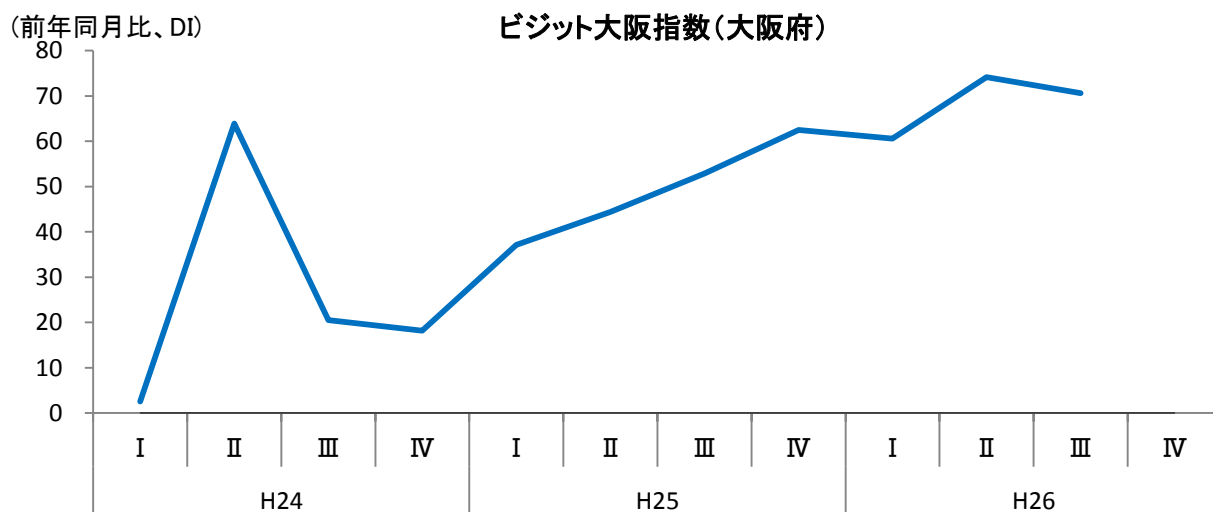
○関西国際空港 国際線外国人旅客数【31ヶ月連続で増加。】



(資料)新関西国際空港(株)「運営概況」

	26年7月	8月	9月
万人	55.8	P 55.9	P 49.6
前年比(%)	27.2	P 33.9	P 34.3

○ビジット大阪指数(DI)【前年同期比で、7～9月期はやや低下。】



(資料)大阪府都市魅力・観光課「大阪府観光統計調査」

※四半期は暦年ベース。DI:「好調」の割合(%)－「不調」の割合(%)。

	26年 1～3月	4～6月	7～9月
業況判断DI (前年同期比)	60.6	74.2	70.6